

2025 年 11 月 30 日（降臨節第 1 主日、A 年）

メッセージ

「光の武具を身につけて」

（マタイによる福音書24:36-44）

司祭ヨセフ太田信三

クリスチャンは、「すでに」と「いまだ」の間を生きる存在です。どういうことかという
と、「すでに」イエス・キリストによる救いに与っていますが、「いまだ」イエス・キリス
トの再臨を待ち望んでいる、ということです。今日からの降臨節は、「すでに」救いを約束
してくださった御子の誕生を祝うクリスマスと、「いまだ」訪れていない再臨の時を待ち望
み、備える期節です。

必ず訪れる再臨の時は、救いの時であると私たちは「すでに」知っています。神はイエ
スの死と復活によって、例外なくすべての命を愛し、救うことを「すでに」明らかにして
くださったからです。再臨の時とは、その救いが完全に実現する時、イエスと私たちが顔
と顔とを合わせる喜びの時です。必ずそのときが到来するのだから、それがいつ来ようと
も、心配せず「今」を大事に生きるのがクリスチャンです。クリスチャンにとって「今」
とは、イエスによって示された希望に照らされた「今」なのです。

パウロは、「闇の行いを脱ぎ捨てて、光の武具を身に着けましょう。」と呼びかけていま
す。「光の武具」とはイエス・キリストのことに他なりません。そして、「光の武具を身に
着け」て生きるとは、「すでに」示された「キリストの光」を身にまとい、「今」を生きる
ということです。闇の中では、人と人は互いに争い、ねたみ、不信と恐れの中で生きるこ
とになります。しかし、キリストの光に照らされるなら、不信と恐れは、愛すること、信
頼することへと変えられます。光であるキリストのみ言葉に聴き、その光に世界が照らさ
れることでこそ、「剣を打ち直して鋤とし 槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣
を上げず もはや戦うことを学ばない」というイザヤの預言がこの世界に実現します。そ
のために、私たちクリスチャンはキリストを身にまとう光の子として、愛するため、信頼
するためにこの世に派遣されています。降臨節は、あらためてこの光を私たちの真中に見
つめ、感じ、歩みをあらたにする時です。

「すでに」示されたキリストの光によってこそ、「いまだ」訪れない世界の実現を私たち
は信じ、その実現のために今を生きることができます。この光を私たちに示してくださ
ったキリストの誕生を祝うことができる者は、キリストの再臨を待ち望みながら今を生きる
ことができます。「主の光の中を歩もう」というイザヤの呼びかけを聴き、主の光に照らさ
れて、今日からの降臨節を歩みましょう。そして来たるべき時を、喜び満タンでお祝いし
ましょう。